

AI for Scienceによる 科学研究革新プログラムについて

2026年5月26日
文部科学省

- AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針について
- AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業（SPReAD）について
- AI for Science革新的研究推進事業（ARiSE）について

- **AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針について**
- AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業（SPReAD）について
- AI for Science革新的研究推進事業（ARiSE）について

AI for Science の推進に向けた基本的な戦略方針（政策概要）

今後5年間の集中改革期間（2026～2030年度）における国家戦略



なぜ今か（背景）

- ・ AIが研究プロセス全体を変革
- ・ 国際競争が急速に激化
- ・ 今後5年間の勝負期間



日本の強み

情報基盤

SINET、NII RDC、富岳NEXT、HPCI等

研究基盤

大型先端研究施設、高品質なデータ

社会基盤

製造・計測技術、暗黙知、等

日本の課題

- ✓ AI利活用の波及・浸透
- ✓ AI高度研究人材の増加
- ✓ 共用計算資源の増強
- ✓ データの効率的活用
- ✓ 信頼できるAIの追求
- ✓ スピード感



政策的な目的

- ① 研究の質・効率の飛躍的向上
- ② 世界を先導する科学的成果の継続的創出
- ③ 国際競争力の強化・新たな価値創造

AI for Science による科学の再興

<目指す姿>

- AIが研究の自然な一部となる環境の実現
- 分野横断的人材が学術・産業双方で活躍
- 自律性と信頼性を備えた

AI for Science 先進国の地位を確立

戦略的な国際連携



新たなチャレンジと普及・振興

世界を先導する研究開発

重要技術領域の先端的成果創出および研究開発期間を1/10に

将来像と期待される成果

研究プロセスの自動化・自律化、探索範囲の拡大

科学的発見の加速

複雑な現象の理解深化と新たな発見

新産業・ビジネスの創出

社会課題解決と産業競争力への貢献

国民生活の質の向上

AI for Science の推進に向けた基本的な戦略方針（概要）

- 「第7期科学技術・イノベーション基本計画」や「人工知能基本計画」、AIを巡る国際動向等を踏まえ、具体的な取組方針を整理。
- 今後5年間で集中改革期間とし、具体的な20のアクションを設定して、大胆な投資によりスピード感を持って取組を加速。
- 日本の強みを生かして、①戦略的な国際連携による世界を先導する研究開発、②新たなチャレンジとAI for Scienceの波及・振興、③これを支える次世代研究基盤の構築、④AIを高度に利活用できる研究人材の育成等を、関係省庁等と連携して強力に推進。
- 研究環境と科学研究プロセスの革新により、自律性と信頼性を備えた研究国家としてAI for Science 先進国の地位確立を目指す。

日本の強み

- ▶ **情報基盤**：世界最高水準の情報流通基盤（SINET）・研究データ基盤（NII RDC）・計算基盤（富岳・富岳NEXT・HPCI等）
- ▶ **研究基盤**：世界トップレベルの基礎科学力と多様な研究者層、世界最先端の研究装置群と大型研究施設、信頼性の高い実験・観測データの蓄積
- ▶ **社会基盤**：世界有数の経済規模、精密な製造・計測技術・ロボティクス、すり合わせや暗黙知を含む現場知、AIに対する社会的・産業的な需要

目的 I. 科学研究の革新と科学的発見の加速・質の変革 II. 研究力の抜本的強化と科学の再興 III. 国際優位性・戦略的自律性の確保

中長期的な取組目標 科学基盤モデル/エージェントやAI駆動ラボの活用により重要技術領域の先端的成果創出及び研究開発期間を1/10に

今後5年間の目標 AI for Scienceの推進により、日本の科学研究における国際優位性の確保

（ターゲット例）



3年後までに、新素材開発速度10倍の潜在力を有するAI駆動ラボシステムを開発

将来は、AI駆動ラボシステムを用いて、我が国の企業が国際的サプライチェーン上不可欠なマテリアルを量産する。



3年後までに、大規模なデータ取得を通じて、高機能なバイオ製品の高効率設計を実現するバイオ生成基盤モデルを開発

将来は、仮想細胞・生体モデルや、植物、動物、ヒト・臓器等の「デジタルツインモデル」を実現し、高精度かつ高効率なバイオ製品開発や創薬等に貢献する。



3年後までに、AIIエージェント群による、最先端大型研究施設・研究装置からの大量・高品質データ創出や、仮説検証・実験の自動化・自律性を実現



新規性の高い研究を探索的に行うシステムの開発を通じて、科学研究の新しい方法論を示す。

戦略的な国際連携
（米国・英国など）

世界を先導する
科学研究成果の創出

AI for Science の波及・振興
による科学研究力の底上げ

AI for Science を支える
研究インフラの構築

（具体的な取組内容）

①研究力・人材
AI高度人材等の育成
×
AI利活用の促進

②計算資源
戦略的増強
×
利便性向上

③研究データ
高品質データの創出
×
データの一体的運用

- AI for Science のあらゆる分野での波及・振興と日本の強みを生かした重点領域の設定・投資を両輪で推進、世界トップ層との戦略的国際共同研究を推進
- AIの基礎研究含むAIそのものの研究の強化（リスク対応含む）
- 国際連携・産学連携を通じ、AI・計算資源・データに精通した人材の参画・育成、技術専門職の育成・確保、評価や処遇の見直し
- 世界最高水準の次世代AI・HPC融合プラットフォーム「富岳NEXT」の開発
- AI共用計算資源の戦略的な増強と利便性（機動性、アクセス性、相互運用性）の向上
- 産業界との連携及び国際連携を通じた計算資源の有効活用
- 戦略的価値の高いデータセットの特定・構築
- 自動化・自律化した研究設備等の整備と研究データ創出プロセスの標準化
- AI時代に即した次世代情報基盤の構築・活用、データの一体的運用

※「AI for Scienceの推進におけるAI利活用に係る研究データの取扱いに関する考え方」についても整理。

- AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針について
- **AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業（SPReAD）について**
- AI for Science革新的研究推進事業（ARiSE）について

「AI for Scienceによる科学研究革新プログラム」 AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業 (SPReAD*)

* Supporting Pioneering Research through AI for 1,000 Discovery challenges

目的

あらゆる分野（人文学・社会科学含む）の研究者が人工知能（AI）を活用して科学研究の高度化・加速化を図ることができるように、計算資源の確保等の研究環境を整備し、アカデミア全体にAI for Scienceの波及・振興を促進し、意欲ある研究者による次の種や芽となる新たなアイデアへの挑戦等の萌芽的・探索的な研究への支援を行うとともに、わが国独自の競争優位を築く革新的科学研究を創出する。

方向性

(1) 迅速な支援

AI分野の技術的潮流の変化が極めて速いことを踏まえ、研究課題の審査・採択にあたっては、機動的な対応を可能とする柔軟な仕組みを構築するとともに、研究に必要な計算資源等を確保するための研究資金について機動的な提供を図る。



(2) 伴走支援

AI分野に関する知識や経験の差により研究遂行に支障が生じることのないよう、研究者が適切な知見を得ながら研究を推進できる伴走支援を構築し、研究の高度化及び分野横断的な連携の促進を図る。

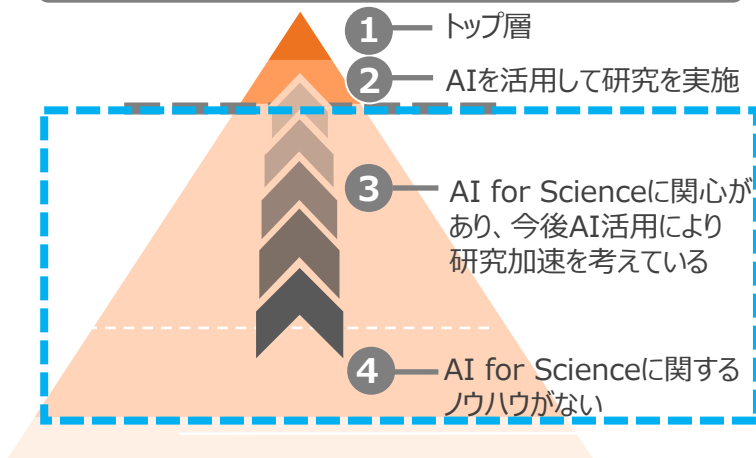


(3) 独創的研究の芽出し支援

AI分野の技術動向が不確実で何が新たな価値を生むか見通しが困難な状況において、研究者の独創的な研究アイデアが創出される環境を、政府として積極的に支援・醸成を図る。



研究者のAI導入への関心度合い（イメージ）



研究体制（イメージ）

- ・情報共有、コミュニティ形成
- ・相談窓口の設置
- ・AI研究者とのマッチング
- ・計算資源等の国内リソースとのマッチング
- ・AI for Science好事例の横展開

アイデアある研究者



支援内容

- 予算規模 ▶ 5百万円以下
- 研究実施期間 ▶ 半年程度
- 公募回数 ▶ 年に2回（春頃、夏頃）
- 採択件数 ▶ 1,000件程度





本事業の3つの柱

01



02



03



01

迅速な支援

02

AI導入に必要な伴走支援

03

独創的研究の芽出し支援

01

迅速な支援

SPReAID

01



02



03



AI 分野は技術革新の速度が極めて速く、研究に必要な技術、ツール、計算資源等が短期間で大きく変化します
このため、従来型の支援スキームでは、研究の着想から実装までの間に技術的優位性を失うおそれがあります

本事業では、このようなAI分野の特性を踏まえ、**機動的かつ挑戦的な審査・採択を実現**することにより、研究に必要な計算資源、データ整備、ソフトウェア利用環境その他の研究基盤を確保するための資金を、迅速かつ適切に支援します



あらゆる分野の1,000件程度の
研究課題を審査・採択

02

AI導入に必要な
伴走支援

01



02



03



AIを科学研究に導入するに当たっては、研究分野ごとに、様々な課題が生じます

また、研究者等の間には、AIに関する知識や経験、活用ノウハウに相当の差が存在しており、これがAI導入の障壁となる場合があります

本事業では、研究者等がAI導入に必要な知見を適時適切に得ながら研究を推進できるよう、伴走支援体制を構築・提供いたします

- 研究者コミュニティの形成および、当該コミュニティに関連するイベントの企画・運営 等
- 研究実施に際して生じる課題に関する問い合わせ窓口の設置・案内



研究の高度化の促進、分野横断的な連携や
実践知の蓄積・共有

03

独創的研究の 芽出し支援

SPReAID

01



02



03



AI for Scienceの発展においては、既存の延長線上にある研究のみならず、現時点では小規模であっても、独創的かつ挑戦的な研究の試行の中から、将来的に大きな波及効果を有する新たな手法や研究領域が生まれる可能性があります

本事業では、研究者等による挑戦的かつ独創的な研究アイデアの創出と実証を積極的に支援し、萌芽的・探索的な研究が育つ環境を醸成することで、我が国におけるAI for Scienceの持続的な発展を支える豊かな基盤の形成を目指します



PoC等を通じたAI活用の検証、ノウハウ抽出・共有、成果の波及可能性を重視

公募概要



スケジュール

公募 期間

第1回: 令和8年4月17日(金)～5月18日(月)正午
第2回: 令和8年6月上旬を予定

研究 期間

第1回: 交付決定日から令和9年1月6日(水)まで
第2回: 未定 ※詳細は確定次第、公式サイト等でお知らせします



応募資格

所属機関に研究者等として認められ、
e-Radに必要情報が登録されていること



補助上限

1課題あたり500万円以下 (直接経費として)
※上記の研究費 (直接経費) に加え、原則として直接経費の30%に相当する
間接経費を機関等に配分します



対象経費 (例)

計算資源に係る経費、データ取得・利用料、API利用料、
ロボットアーム等の設備費、データ整理・確認作業に係る謝金 等
※人件費は対象となりません。詳細は、公募要領をご参照ください



公募の対象









人文学、社会科学から自然科学までのあらゆる分野の研究者等を対象として、
本事業の趣旨に合致する研究課題のうち、**研究代表者個人**で行う研究計画

開発・利用それぞれで、合わせて主に8のユースケースを想定

本事業で想定するユースケースと定義

ユースケースの分類

定義/判断基準

開発	学習用データセット構築	既存モデルの適応	AIモデル開発	既存モデル評価
				
	<ul style="list-style-type: none"> 今後のAI・深層学習での活用を前提としたデータ収集や加工の過程が主である場合は本ユースケースに該当 (実験やフィールドワーク等によるデータ収集も含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の基盤モデルを、事後学習・ファインチューニングにより、軽量化・高速化・最適化することが主な場合は本ユースケースに該当 (学習を伴わないRAGの構築などは、本ユースケースでなく、「利用」から選択) 	<ul style="list-style-type: none"> 自らモデル構築し、データ収集、事前学習・微調整、検証・評価の一連のサイクルが全て含まれる場合は本ユースケースに該当 (大規模言語モデルに限らず、深層学習を活用した研究を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 既存モデルの「検証・評価・改善」を主目的としている研究は本ユースケースに該当。AIの改善を目的としていれば、仕組みの理解 (例: プロビング) の研究も本ユースケースに該当
利用	実験自動化・自律化	シミュレーション・デジタルツイン	発見・設計支援	高度データ解析・モデリング
				
	<ul style="list-style-type: none"> 物理的な実験器具・ロボット・機械等との接続が含まれる場合は本ユースケースに該当 (ただし、本事業期間中はコード開発等に留まり、実際の器具等を扱わない場合、本ユースケースでなく、「開発」「利用」から最適なものを選択) 	<ul style="list-style-type: none"> 既存のAIの利用¹が主で、現時点では「実際の実験・観測」による研究が必要なプロセスを、シミュレーション・デジタルツインにより代替することを企図する研究が該当 (スクラッチでのモデル開発の場合は「AIモデル開発」を選択) 	<ul style="list-style-type: none"> 既存のAIの利用¹が主で、仮説生成から実験計画など、「実際の実験・解析」などに至る前段階のプロセスをAIにより効率化・自律化する場合が該当 	<ul style="list-style-type: none"> 既存のAIの利用¹が主で、(シミュレーション・デジタルツインに該当するもの以外で) データ分析・予測の高度化をはかる研究が広く該当 (ただし、自ら一連のモデル構築を行う研究は「AIモデル開発」に該当)
他	その他	<ul style="list-style-type: none"> 主として理論的な研究や、「Science for AI」に近い研究、また、AIに関するメタサイエンス等、上記に当てはまらないユースケースや研究等 		

1. ChatGPT等の既存モデルをサービスあるいはAPI経由で利用したり、SaaS・AutoML系のサービス等を利用することを指す

審査に関する前提

近年、挑戦的・分野横断的な研究課題や不確実性の高い研究課題については、従来型の審査手法のみではその価値や発展可能性を十分に見極めることが難しい場合があること、また、申請・審査の双方に係る負担を適切に軽減しつつ、研究の挑戦性を後押ししていくことの重要性が指摘されています。

そこで、本事業においては、以下の考え方を踏まえ、**機動的かつ挑戦的な審査・採択手法を導入**することで、あらゆる分野におけるAI for Scienceの波及・振興を図ることとします。

- A) AI for Scienceの研究は分野横断的かつ探索性が高く、研究初期段階では将来的な発展可能性を一義的に見通すことが難しい中で、多様な分野におけるAI for Scienceに関する将来の発展可能性を広く確保する必要があること
- B) AI技術の進展が極めて速く、これに対応する研究課題について時機を逸することなく支援していく必要があること
- C) 審査・採択に当たっては、申請書作成や審査の負担を軽減しつつ、独創的かつ挑戦的な提案を迅速かつ適切に評価しうる審査・採択スキームを導入することが必要であること

※本事業は、こうした機動的かつ挑戦的な審査・採択手法を試行的に導入する取組でもあり、その実施を通じて得られた知見については、今後の研究評価及び資金配分手法の改善や AI for Science 施策の検討に活用し、研究現場に資する形で還元していくことを約束いたします。

(参考)基礎研究振興部会における議論

※令和8年3月4日 第21回基礎研究振興部会
 【資料1】「基礎研究の振興について～評価の視点から～部会における主な意見の整理について」より

評価疲れ・審査コストの増大

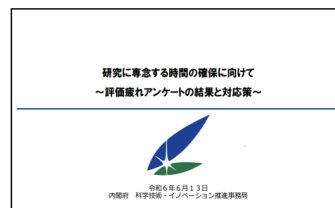
- 令和6年に内閣府にて行われてた「評価疲れ申請疲れに関するアンケート」では、申請書・報告書の作成負担についての意見が多くみられた
- 令和5年の日本学術会議若手アカデミーによる提言では、審査コストに関する問題意識が挙げられている

評価疲れアンケートの回答結果（一部抜粋）

○申請書・報告書の執筆が負担である

主な意見

- 現行制度では申請書の作成と審査にかかる負担が大きすぎ、他国の研究者と競争する前に自国の研究者で同士討ちをするために多大な労力を割いているように思える。
- 最近は少額の制度にまで大量の申請書と面接審査が求められるようになってきており、研究者全体の大きな負担になっている。
- 申請や報告の書類を執筆する時間が研究時間を圧迫しており、本末転倒である
 ※なお、科研費については改善されているという声が大きかった



日本学術会議若手アカデミー提言（一部抜粋） (2) 研究環境改善のために今から取り組むべき課題

- 科学技術政策が軸足を基盤経費から競争的資金へと移す流れの中で、提案者も審査員も提案と審査に多大なエフォートを割き、これが双方に“評価疲れ”とも呼べる過大なコストを強いている。
- 過剰な審査コストの軽減策の1つとして、ピアレビューによって明らかに不適当な課題（および明らかに卓越した課題）をスクリーニングした上で残った提案からランダムに採択課題を選抜する“スクリーニング&ランダム”方式などを導入することも提案できる。

研究評価改革の議論を受けた新たな評価手法： 実験的ファンディングとは

【英国 Research on Research Instituteによる定義】

研究申請のレビュープロセスに新規の手法で介入し、効果を検証することでファンディングシステムの効率化や効果の最大化を狙う取り組み



研究課題事前評価プロセスで一般的に指摘される課題

- 科学の仕組みを用いたシステムの効率化
 科学研究で用いられる実験的手法を科学システムに応用し、効率やファンディング結果の向上へつなげる
- 採否のボーダーラインにある申請書の評価が困難
- ファンディングに関する労力の軽減と質の高い申請採択との両立
 研究者が労力をかける研究申請書のほとんどは採用されない。採択のための事前評価にも労力がかかるため、より効率の良い資金配分方法を模索
- ピアレビューシステムの限界
 ピアレビューの品質やレビュアーの確保の解決案を模索
- バイアス軽減
 性別、研究キャリア、所属機関といったバイアスの低減
- 多様な研究者からの研究申請促進

研究課題の事前評価に関する実験的ファンディング手法例



(出典) 基礎研究振興部会第20回

手法	概要	期待されるメリット	想定されるデメリット	導入例
AIによるレビュアー割り当て支援	申請書へ割り当てられるレビュアー候補リスト作成にAIを用いる。	・ファンディング機関の負担軽減 ・申請者とレビュアーとの専門性合致	導入例が極めて少ないが、特にデメリットは報告されていない。	スイス国立科学財団、オーストラリア研究会など
くじ引きファンディング	採否のボーダーライン上にある申請をランダムに採択。	・評価者、ファンディング機関の負担軽減 ・無意識的バイアス低減	被評価者の評価に対する信頼を損なう恐れがある。	British Academy, Healthcare NZ, スイス国立科学財団など
マネーの虎形式	審査員へのプレゼンテーションのみでの採択決定	・革新的なアイデアの採択	プレゼンテーション能力が高い母語話者に採択が偏る可能性がある。	UKRI-EPSRCなど
申請者の匿名化	レビュアー、審査委員会へ申請者を匿名化した上で評価を実施。	・バイアスの低減 ・革新的なアイデアの採択	申請者の研究実施能力の評価が制限される	NIH, UKRI-EPSRC, オーストラリア科学基金など
分散型ピアレビュー	申請者が他の申請者のレビューを担う。	・レビュアーの確保 ・レビュアー一人当たりの負担軽減	悪意のある申請者による他の申請への低評価	フォルクスワーゲン財団など

➡ くじ引きファンディング、分散型ピアレビューでは近年効果検証が進む

Rushforth, et al. 2025. Transforming Assessment: The 2025 Global Research Council Survey of Funder Approaches to Responsible Research Assessment. May 2025. <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.28856480>. ほかからCRDS作成

(参考) 日本学術会議提言「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策」

提言6 評価制度改革に向けた実験的導入と検証を支援する制度を創設する

資金配分機関は、国内外の先行事例を参考に、準ランダム配分（ロタリー・ファンディング）やAIによる審査支援など、新規性の高い手法を実験的に導入し、その効果や影響を検証すべきである。ただし、本質的な解決は研究費総額の拡充と評価体制の強化であり、準ランダム配分やAI審査支援はその代替とまでなるものではなく、適切な設計の下で課題の一部を緩和し得る補完的な方策にとどまる。

実験的導入では、その効果を確認した上で修正していくことを前提に、柔軟な制度設計と検証サイクルを伴うことが重要であり、このような取組を継続することを通じて、持続可能で公平かつ革新的な研究評価システムへの移行を加速させることができる。また、このような実験的導入を進めるには、評価制度の設計や評価者育成、データ基盤整備などを通じて、関係者の能力を高めることが必要である。

(参考) 第7期科学技術・イノベーション基本計画

(4)研究評価の見直し、研究資金制度の継続的改善等

国際的な研究評価改革の動向等も踏まえつつ、政策、施策及び研究開発プログラムの評価の在り方についても検討した上で、「国の研究開発評価に関する大綱的指針」（平成28年12月21日内閣総理大臣決定）について2026年度内を目途に見直す。その際、科学技術・イノベーションにより社会課題を解決していくという観点から、経済・社会への影響を評価するとともに、定量的評価に過度に偏重しないようにすることも考慮する。

競争的研究費に関し、特に継続的に公募を行うものについて、新たな資金配分の方策を探り、都度ピアレビューを経るのではなくそれ以前の成果・実績等に連動して配分する仕組みや、申請書作成や審査の負担を軽減しつつ不確実性への投資が可能となる仕組みを検討し、スモールスタートでその効果の検証も踏まえながら展開を図る。また、研究力を先端的な手法を取り入れつつ多様な視点で分析、評価する手法を検討する。

各競争的研究費において、その使い勝手の改善を図る。同時に、研究時間確保に向けて、申請書・報告書等の刷新を始め、資金配分機関の連携を含めた申請手続等の簡素化・効率化を進める。

また、アカデミアにおける、学協会の活動・運営負担の在り方やヒエラルキー構造、それに伴う論文のオーサーシップの在り方といった慣習の見直しについても後押しする。

審査の全体像

公募の審査は、以下の通り二段階により実施し、全体を通じて非公開で行います。

第一段階

応募書類（研究計画調書等）の内容を踏まえ、研究領域や想定されるユースケース等に応じて、各研究課題について適切な審査を行うために審査区分を決定します

なお、AI を活用したインタビューの内容を、審査区分を決定する際の参考情報として活用しますが、AIインタビューの内容により採択又は不採択を決定するものではありません

※AIインタビューを通じて得られた情報は、個人情報その他の情報の適切な取扱いに留意しつつ、文部科学省における今後のAI for Science 施策の検討のためにも活用する予定です

第二段階

第一段階で決定した審査区分ごとに、ピアレビュー及び無作為抽出を組み合わせて採択候補を選定します。その際、採択水準に達しない研究課題は、ピアレビューにより不採択とします。

※ピアレビューに際しては、応募者が、審査が非公開で行われることを前提に、未発表の研究結果や研究アイデア等を研究計画調書に記載していることを踏まえ、審査委員に対し、守秘義務の徹底を求めています(詳細は、公募要領をご確認ください)

採択課題の決定

最終的な採否については、AI for Science が幅広い研究分野に波及し、その振興が図られるよう、研究分野のバランス等を考慮して審査委員会において総合的に判断します

- AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針について
- AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業（SPReAD）について
- **AI for Science革新的研究推進事業（ARiSE）について**

「AI for Science による科学研究革新プログラム」 AI for Science 革新的研究推進事業 (ARiSE*)

令和7年度補正予算額

320億円



文部科学省

* AI to Redesign Scientific Exploration

目的

- 「AI for Science の推進に向けた基本的な戦略方針」に定められた具体的なアクションを先導するフラグシップ事業として、我が国の強みを最大限に活かせる重点分野及び戦略ターゲットへの集中投資による世界を先導する科学研究成果の創出並びに世界トップレベルの研究機関・研究者との戦略的な国際連携等を推進。
- 我が国がAI for Scienceにおいて、技術的不可欠性と戦略的自律性を確立し、不可欠な国際研究パートナーとなり、もってAI for Science先進国の地位を築くことを目指す。

事業内容

戦略ターゲット型

- 戦略方針に基づき戦略ターゲットを設定し、集中投資を行うことにより、複数の研究開発課題を束ねたポートフォリオからなる世界から顔が見えるフラグシップ事業として、科学基盤モデル、AIIエージェント、次世代AI駆動ラボシステムなどの開発を一体的に推進
- 産学の共同により先駆的取組を早期実装・ビジネス化、イノベーション創出
- すでに準備、試行開始している取組を対象

◆ 3年後までに達成すべきターゲット

- ①新素材開発速度従来比10倍の潜在力を有するAI駆動マテリアル開発システムの実現
- ②大規模なデータ取得等を通じて、高機能なバイオ製品や創業の高効率設計に貢献するバイオ生成基盤モデルを開発
- ③大型研究施設・研究装置における自動自律化等、大量データの分析能力向上に資するAIIエージェント・AI基盤モデル開発

◆ 予算規模・採択課題数 (※1)

- ①30億円程度×1課題程度/30億円程度×1課題程度/
10億円程度×4課題程度
- ②20億円程度×3～4課題程度
- ③20億円程度×1～2課題程度

(※1) 詳細はARiSE基本方針(令和8年4月文部科学省研究振興局)を参照

国際・融合型

- 新興・融合分野や戦略方針に定められた重点分野を含むあらゆる分野を対象として、研究力の高い同盟国・同志国等との戦略的な国際連携等により、世界と伍する研究チームを構築し、AI for Scienceに係る独創的な研究やツール開発・高度化などを推進
- 新たな勝ち筋の探求、国際的なチャレンジへの参画や国際ベンチマークでの高スコアの達成などの国際トップリーグへの参画を目指す

◆ 予算規模・採択課題数

- 2億円程度×20課題程度

そのほか公募にむけた共通事項

- 支援スキーム：科学技術振興機構からの委託
- 事業実施期間：～令和10年度
- 支援対象：CO-PI体制(AI研究者及びドメイン研究者)
- 資金配分：研究進捗に応じ、追加配賦もあり得る
- データ：データマネジメントプランの策定

◆ スケジュール(予定)(※2)

- 募集期間：5月12日～6月30日(公募説明会：5月15日)
- 選定課題の通知・発表：9月中旬～9月下旬
- 研究開始：10月以降

(※2) 詳細はJST HPを参照